

○ 測量用航空機「くにかぜ」 (60年にわたり3代が活躍)

「くにかぜ」
 昭和35年～昭和58年



運航時間: 7,600時間
 運航距離: 23万km (地球約5周半)
 撮影面積: 282,000km²

「くにかぜⅡ」
 昭和58年～平成22年



運航時間: 9,000時間
 運航距離: 34万km (地球約8周半)
 撮影面積: 582,570km²

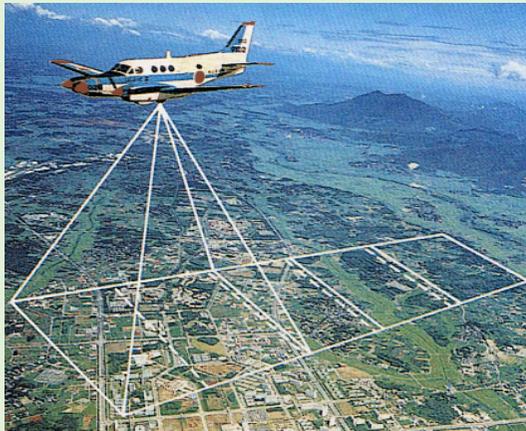
「くにかぜⅢ」
 平成22年～現在



運航時間: 2,410時間
 撮影面積: 45,000km² ※各数値は令和元年度まで

○ くにかぜ搭乗員の業務 (空中写真撮影)

【空中写真の撮影イメージ】



高度2,000m～6,000m上空から、隣接写真の重複60%、コース間の重複30%となるよう撮影。これにより地形図の作成が可能。機材は進歩しても測量の原理は変わらない。

【機内での作業の様子】



初代くにかぜ機内
 : 測量用大型カメラ使用



高高度撮影では酸素マスク装着



くにかぜⅡ機内
 : 機器に囲まれ狭い作業スペース。ファインダーで地上を見ながら撮影。



離島撮影時はライフジャケット装着



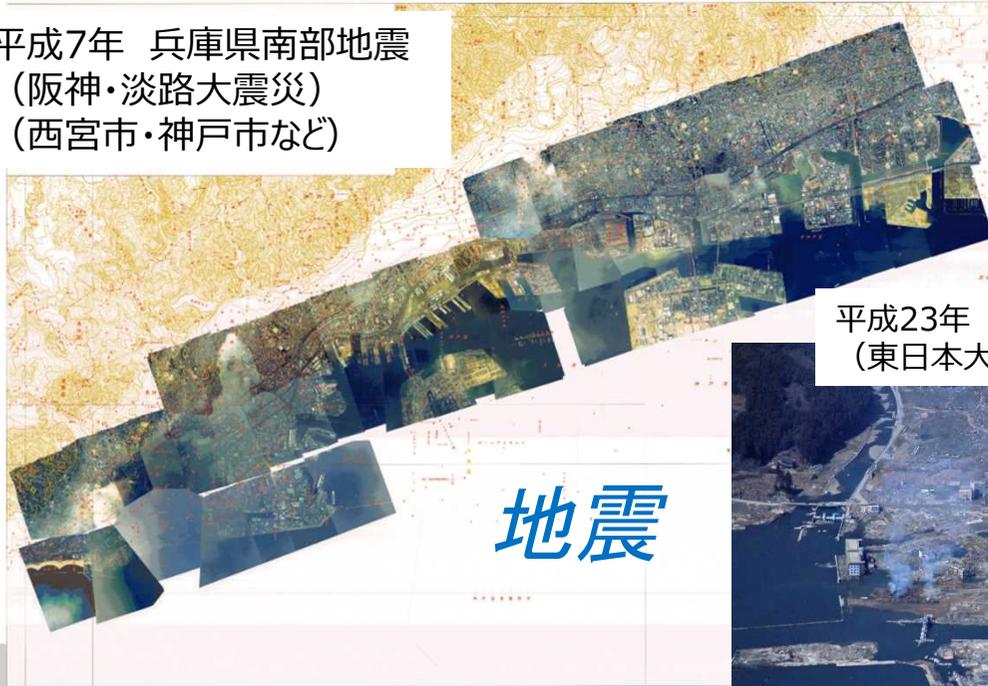
くにかぜⅢ機内
 : デジタルカメラ、データ処理装置搭載。モニターで撮影状況確認。



災害時は斜め写真撮影も実施

国土を記録し続けて60年 -くにかぜ撮影チームのアルバムから-

平成7年 兵庫県南部地震
(阪神・淡路大震災)
(西宮市・神戸市など)



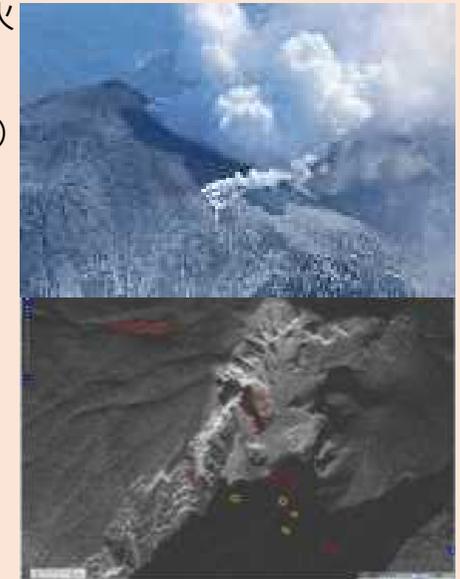
地震

平成23年 東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災) (南三陸町)



平成26年 御嶽山噴火
【上】通常撮影
【下】レーダー撮影
(噴煙下でも可能)

噴火



平成30年 西之島 (小笠原村)



平成28年 熊本地震 (南阿蘇村)



平成30年 北海道胆振東部地震
(厚真町)



土砂災害

平成30年7月豪雨 (倉敷市)



水害

令和元年東日本台風 (長野市)

